

QI	HbA1c<7.0%の割合
分子	HbA1c(NGSP)の最終値が7.0%未満の外来患者数 (データ算出期間最終日から直近3カ月内の検査最終日の数値を最終値とする)
分母	糖尿病の薬物治療を施行されている外来患者数 (過去1年間に糖尿病治療薬が外来で合計90日以上処方されている患者)
根拠	糖尿病患者の血糖コントロールとして最も広く使用され、糖尿病学会の血糖コントロール目標に対するガイドラインもHbA1cを中心に目標値が設定されている。また、日本病院会のQIプロジェクトにおいても推奨され、聖路加国際病院をはじめQIとして広く用いられている指標である。
目標	30% 当院は外来患者数の制限を図っており、病態が落ち着いた患者は近医でのフォローに振り分け逆紹介している。よって、コントロール不良の状態で紹介され、コントロールが改善した段階で近医に逆紹介していることより、必然的にHbA1c>7%のコントロール不良の患者人数が多いと考えられる。全国の糖尿病専門医の在籍する58施設の2016年調査により、1型および2型糖尿病を合わせた通院患者平均HbA1c7.04%と報告されていることより、全国平均としてはHbA1c<7%達成率のQIは50%となるが、上記理由により30%とした。

